

光明寺だより

第87号

浄土真宗本願寺派

光明寺

〒793-0030 西条市大町550

TEL 0897-53-4583

心に残る詩

命

米田敬祐



いのちから
生まれた命

いのちは 宇宙
命は 心臓の鼓動

いのちは 茫々
命は 吐く息吸う息

いのちは無限
命は わたし

いのちに帰る命

産経新聞「朝の詩」より

*作者の言う「いのち」とは、あらゆるものを生み出し、あらゆるものを生かす宇宙を覆っている根元のハタラクキである法性法身と呼ばれる仏さまのいのちを指しているのです。いのちから生まれた命(我が命)は、まさに仏さまに生かされた命であります。

新春記念法座

1月9日(金)

午後4時

【講師】備後教区・光徳寺

藤田徹文先生



謙虚な心

松下幸之助氏（1894～1989）に、次のような言葉が残されています。

学ぶ心

学ぶ心さえあれば
万物すべてこれ我が師である
語らぬ石、流れる雲
つまりはこの広い宇宙
この人間の長い歴史
どんなに小さいことにも
どんなに古いことにも
宇宙の摂理、自然の理法がひそかに
脈づいているのである
そしてまた 人間の尊い知恵と体験が
にじんでいるのである
これらのすべてに学びたい

丁稚奉公から身を起し、経営の神様と称えられた松下幸之助氏ならではの味わい深い詩です。

冒頭の「学ぶ心さえあれば、万物すべてこれ我が師である」という言葉は、仏教の



教えに相通じます。

『華嚴経・入法界品』に、善財童子という少年の仏道修行の話があります。

インドの長者の子であった善財童子が、文殊菩薩の勧めにより、五十三人の善知識（私を導いてくれる善き師）を次々訪ね歩き、最後に普賢菩薩に出遭って、悟りを開くという内容のお経です。

ここに登場してくる善知識というのが、まことに多種多様な人たちで、文殊菩薩のような優れた方もいれば、金持ち、商人、船頭、外道（仏教徒以外の人）、童男、童女（少年、少女）、さらには遊女といった人々も出てくるのです。

つまり、道を求める心さえあれば、どんな人でも善知識（私を導いてくれる善き師）になるということを教えております。

まさに「万人（万物）すべて我が師なり」です。

ただ、ここで気をつけたいことは学ぶ者の心構えです。

たとえば学んだことが自惚れを助長したり、学んで知ったことが自慢の種になって、相手を見下すような学び方なら、むしろ学ばない方がいいでしょう。

学ぶ者にとって最も大事なことは「謙虚さ」です。「謙虚である」ということが学ぶ

者に最も要求されることです。謙虚さを忘れた学びは、慢心（思い上がり、自惚れ）を生みだすばかりです。

殊に、お念仏の教えは、学べば学ぶほど、自らの愚かさに気づかせていただく教えです。だから慢心の心をもってしては、決してその教えを頂くことは出来ません。

親鸞聖人は次のように仰っています。

善知識に会うことも

教ふることもまた難し

よく聞くことも難ければ

信ずることもなお難し（浄土和讃）

慢心の心がある限り、善知識に会うこともお念仏の教えを信じることも出来ないと思っているのです。

しかし、ひとたび頭が下がれば、全ては私の善知識と仰ぐ世界が開かれ、お念仏のみ教えこそこの愚かな私の為であったと、心の底から喜んで頂くことが出来るようになるのです。そのために、どこまでも謙虚さを失わないことが大切なのです。

恐るべきは「慢心」、忘れてならないのは「謙虚さ」であります。

★東海道五十三次は、五十三人の善知識の物語から作られたと言われています。

自由と平等について



「我に自由を与えよ、しからざれば死を」という有名な言葉がありますように、私たち人間が社会生活を送る上でまず求めるものは「自由」です。

しかし、めいめいが好き勝手に自由を押し広げていくと、能力のある者は極めて力を持ちますが、能力のない者は支配されるということが起こります。自由を求めながら却って不自由な社会が生じるのです。

そこで、次に求めるものは「平等」ということです。「自由も欲しいが、平等に自由を得たい」と考えるのです。

能力のある者はどんどん栄えるが、能力のない者は衰えていくばかりでは困るから、どうしても皆が平等に栄えたいと考えるのです。

そこで、この自由と平等とをうまく調和していくために「博愛」という精神が生まれるのです。

かくして、自由・平等・博愛……これが理想の社会を作り出すというのです。

そのために、具体的にどうすればいいのかと考えた時に、思いついたのが、いわゆる「共産制度」というものです。

能力の有無にかかわらず、平等に富を分

配し、私有財産をなくすということですが、そうすれば人間の理想である自由で平等な社会が実現すると考えたのです。

実は、この制度は近代になって始まったものではなく、日本ではすでに奈良時代に採り入れられているのです。

「班田収授の法」というのがその制度です。これは私有財産を撤廃し、土地は全部、国有とし、男が生まれたら三反、女が生まれたら三分の二反を支給する。死ねば土地は国に返すというものです。これはまぎれもなく共産制度です。

ところがここからです、予想外のことが起こるのは。

いくら国から平等に土地を支給されるといっても死んだら返さねばなりません。そのなると、皆、肥料を施さないので。そのため年々土地が痩せていったのです。国も色々と奨励もしましたがうまくいきません。

そこで新たに、「新しく開墾した土地は自分のものにしてよい」ということにしたのです。すると、どうでしょうか。「我も我も」と皆、新しい土地の開墾に走ってしまったのです。もちろん支給された土地は放ったらかしです。その結果、国有地は益々荒れ放題になり、とうとうこの制度も崩壊して

しまったというわけです。

自由も平等も人間の理想であります。肝心の人間の精神が甚だお粗末なものですから、このようなことになるのです。考えさせられるではありませんか。

ここで、お念仏の教えを見てみましょう。親鸞聖人は「念仏者は無碍の一道なり」と仰られました。念仏者は障害のない人生を歩むことが出来るという意味です。

なぜかといえ、我が人生に起きる一切の出来事はお念仏を喜ぶかけがえのない縁だといただく智慧が恵まれるからです。

それは「ようこそ、ようこそ南無阿彌陀仏」と過ごされた妙好人足利源左さんに代表されるような生き方です。つまり「私の人生に何が来ても構いません、どんな時でもそれを喜びに転じていく智慧と力が恵まれています」という生き方です。

そこには不自由の中にあっても不自由と感じない、不平等の中にあっても、不平等と感じない、そんな自在な生き方が実現するのです。これこそが本当の意味で自由で平等な生き方ではないでしょうか。

仏法で説く自由と平等は、周り（社会）を変えるのではなく、まさに自分自身が変わっていくところに実現すると教えるものです。

(3)

平成26年12月

光明寺だより

87号

「住職補任式」受式！



ご門主より任命書を頂く新住職



補任式終了後、新住職・安永、石川両氏



さる10月7日、住職補任式が西本願寺で執り行われ、新住職（釋一心）と、門徒総代さん2名（安永省一氏・石川博史氏）が式に臨みました。

2日間の日程で一日目は新住職、門徒総代の研修が行なわれ、二日目に住職補任式が阿弥陀堂で執り行われました。補任式では、専如新ご門主より新住職に「住職任命書」が授与され、あらためて住職としての使命と責任の重さを実感し、身の引き締まる思いがしたとのことでした。

5月に継職法要を行い、すでに住職の届出は済ましていましたが、今回の住職補任式をもって、名実ともに新住職としてのスタートが切られたということになります。

当日は北海道教区から鹿児島教区まで、全国29教区から80名の新住職と110名の門徒総代が参加されました。



「彼岸会法座」開催！



さる9月27日（土）、ご講師に季平博昭師（備後教区・法光寺住職）をお迎えし、秋の彼岸会法座が行なわれました。

今年のお話は、浄土真宗生活信条第3章「み仏の教えにしたがい、正しい道を聞き分けて、まことのみのりを広めます」についてお話をいただきました。

【講演主旨】

お釈迦様は「人生は苦なり」と教えています。それは「生老病死」に代表されるように、この世の一切のものが自分の思

い通りにならないからだというのです。思い通りにならないことを思い通りにしようとするところに人間は苦しみを増大させ迷いを深めていくのです。時には、いかがわしい「ご利益宗教」に走る人も少なくありません。それでは苦の根本的な解決にはなりません。

大事なことは、私が今こうしてあるということは、私にとってそれはあるべくしてあったんだと受け止めていくことです。そうすれば、私の人生には様々なことがあるけれども、いかなる人生の出来事も私に何を学ばせようとしているんだろうかと考えることが出来るようになります。そこに「苦」を乗り越えていく人生が開かれていくのです。

平成27年度行事予定表



日 時	行事名	講 師
1月09日(金) 午後4時	新春記念法座	備後教区光徳寺前住・藤田徹文師
1月16日(金)	正月参拝	
3月15日(日) 午前9時	涅槃会	
3月24日(火) 午後2時	彼岸会法座	大阪教区法栄寺前住・小林顯英師
8月13日(木) 14日(金)	新盆合同追悼法要	
8月16日(土)	お盆参拝	
9月27日(日) 午後2時	彼岸会法座	備後教区法光寺住職・季平博昭師
12月02日(水) 午後2時	報恩講	大阪教区西光寺住職・天岸浄圓師
12月31日(木)	除夜会・元旦会	

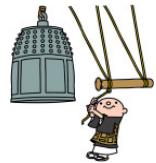
★行事の追加、変更があれば本紙にてお知らせいたします。

除夜会・元旦会

12月31日

午後11時45分より

★除夜の鐘終わり次第本堂にて
元旦会を行います



「報恩講」修行！



11月29日(土) 浄土真宗で最も大切な仏教行事である「報恩講」が行われました。本年は前住職が講師をつとめ、「いのちの姿」…我々のいのちはなくならない。大きな大きないのちのハタラクキの中で循環している…についてお話をしました。

当日は32名の参拝者がありました。今年の法座皆勤者は次の17名の方々でした。一年通してよくお参りしていただきました。

田坂幸祐・田坂保美・田坂文子・谷口幸平・永井初枝・野間幸子・

松本朱美・眞鍋磨千子・森延子・森賀英幸・森賀愛子・森賀美代子・森本隆雄・森本安恵・守谷眞澄・安永省一・安永敏枝 (敬称略)

趣味の広場



俳句を楽しむ(六十六)

森本隆を

十一月に入ったかと思つたのはついこの間、
と思うまもなくはや下旬、師走がそこまできて、
毎年この時期がくると「一年たつのは早いなあ」と
いつも思うのです。歳末のあわただしい気分
は独特のものがあり、特に用もない老人の自分
まで一日があつという間に暮れてしまします。
十二月は年忘の月ですね。

年忘はもともと除夜の魂祭の日で家々で先祖
の霊を祀つた「暮の魂祭」という行事のことで
したが、今ではすたれて、同僚・仲間・親戚な
どが集まり一年の労苦を忘れるため、忘年会と
称し宴を催すことが多いですね。

若き人にまじりてうれし年忘 几 董
さかもりや一雫にて年わすれ 智 月

この二句は江戸期の年忘れを詠んだ古句です
が、お酒そのものがまだまだだぜいたくな物とさ
れていた頃ですから、今年が終わるといふ気分
より、集まりに加わって酒を飲めるうれしい気
分が強く出ていてほほえましい句です。現代の
忘年会を詠んだ句としては

年忘れ最も老を忘れけり 富安 風生
遅れ来て上座もらひし年忘れ 金子 朗

熱燗派ぬる燗派ぬて年忘れ 吉川自仙女
ぐい飲みは不揃いがよし年忘れ 五十崎 朗

といった句が有名です。どの句からも忘年会
らしく無礼講でいかにも一年をしめくくる気
分がしように読み取れます。そんな大騒ぎが
終ると、いよいよ来たるべき新年に備えての
年用意に取りかかります。

ふと見ると壁に張つた今年のカレンダーが
ずい分古ぼけて見えます。

古曆おろかに壁に影おけり 柴田白葉女

古曆焚くユトリ口を惜しみつつ下村ひろし

古曆あへなく燃えて了ひけり 成瀬桜桃子

そして新しく来年のカレンダーに掛け替
えて今年一年に決着をつけた感覚になります。

もう一つ、今年一年何かにつけ書きつけて気
持ちの整理をしたり思い出したりしたり日記
帳ももう残り少なくなり、整理を考えねばな
りませんね。

古日記書かざりし日も懐しき 松本 河南

大方は子らの事なり古日記 堀田喜代子

振り返り読みこの一年をなつかしめば、次に
新しい年の日記を又買い求めねばなりません。

我が生は淋しからずや日記買ふ 高浜虚子
秘める物なくて鍵ある日記買ふ 辻三枝子
そう言えば鍵のついた日記帳を売っている
のを見たことがあります。最近あまり見かけ
ないのは、大した意味がないことに誰かが気
づいたのでしょうか。

そしていよいよ年が詰まってくると、どう
してもやらねばならぬ事が残っていたことに

気づくのです。年賀状書きです。

一つ灯を妻と分け合い賀状書く 高村 寿山

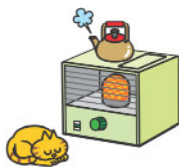
賀状書くけふも明日も逢ふ人に 藤沢 樹村

賀状書く喪中幾葉かへし読み 川畑 火川

鶏の眼の大きな版画や子の賀状 大城 芳子

年賀状というものは、書いて出すのが少々わ
ずらわしくてもう止めようか等と思う割には、
貰うとなぜか懐かしくうれしい、という少し奇
妙な感じのものです。よく考えると、一年にたつ
た一度の音信で相手を懐しく思い、元気でやっ
ている事を確認し互いの無事を悦ぶ気分になれ
る、やはり意味のある文化の一つだとわかりま
す。さあ、少しの暇を見て、普段無沙汰を続け
ている人に、葉書一枚書いてみませんか。来年
もよいお年を。

合掌



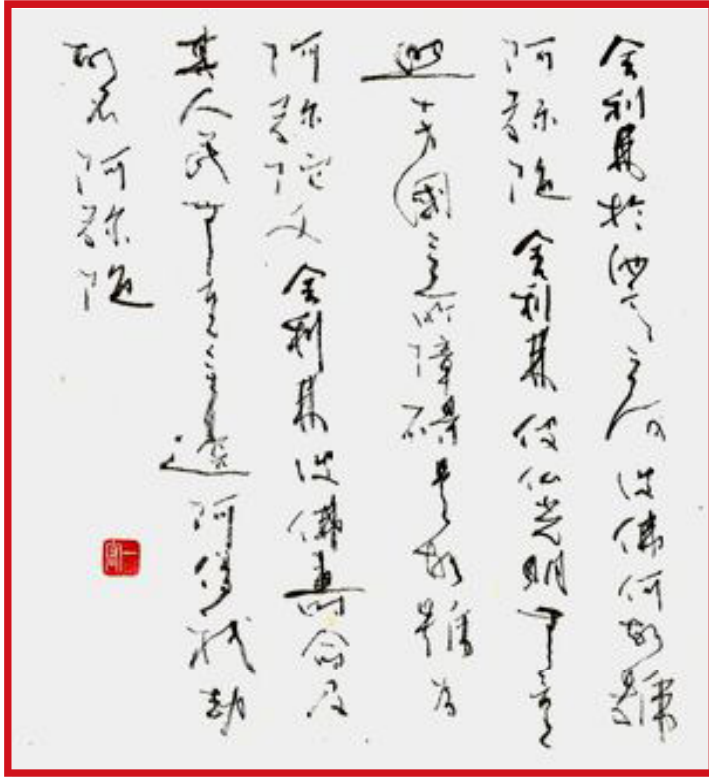
位職書作品



【本文】

舍利弗・於汝意云何・彼仏何故・号阿弥陀・舍利弗・被仏光明無量・照十方国・無所障礙・是故号为阿弥陀・又舍利弗・被仏寿命・及其人民・無量無辺・阿僧祇劫・故名阿弥陀

『阿弥陀經』の一節



★お釈迦様が舍利弗に、阿弥陀仏が光明無量、寿命無量の仏さまであることを語っておられる一節である

BOOK 本

『65歳からの仏教』

―おとなのための浄土真宗入門―



出版社 本願寺出版
編集 本願寺出版
定価 1200円＋税

六十五歳はこれまでの人生を振り返り、これからの生き方を考える分岐点です。そして誰も平等に訪れる「死」を意識し始める歳でもあります。

本書は六十五歳から「死を迎える」までの人生のよりどころを「仏教（浄土真宗）」に求めたいという方のための、仏教入門書です。五章から構成されていますが、次のようになっています。

- 第一章 私が出会った仏教
- 第二章 釈尊に学ぶ
- 第三章 親鸞聖人に学ぶ
- 第四章 孫からの質問に答えよう
- 第五章 悩み相談室ものです。

平成27年度年忌早見表

光明寺のホームページ

西条光明寺

または

南岳山光明寺

検索



「年忌繰り出し」を該当者に配布していますが、手作業のため見落とすことがあります。必ず、ご自宅の過去帳で確認して下さい。

回忌	死亡の年号
1周忌	平成26年
3回忌	平成25年
7回忌	平成21年
13回忌	平成15年
17回忌	平成11年
25回忌	平成 3年
33回忌	昭和58年
50回忌	昭和41年
66回忌	昭和25年
100回忌	大正 5年
150回忌	慶応 2年
200回忌	文化13年
250回忌	明和 3年
300回忌	享保 1年



言葉のプレゼント

空しさ・・・

それは本当にしたいことをしていないぞという「いのち」からのメッセージ

「光明寺だより」をご家族の皆さんでお読みください

次回発行予定…2月上旬



★9月27日、季平博昭先生をお迎えして秋の彼岸会法座が開催されました。30名の参拝がありました。

(*関連記事4ページ)

★10月7、8日、本山において住職補任式が執り行われました。当山より新任職、門徒総代2名が参加いたしました。

(*関連記事4ページ)

★11月29日(金) 報恩講がつとまりました。32名の参拝がありました。本年は前任職がお話を致しました。

(*関連記事5ページ)

★新任職の子、心(通称ここちゃん)がヨチヨチと歩けるようになりました。

★今年も残り少なくなりました。ご門徒の皆さんにはお健やかに越年されますよう念じ申し上げます。

